

みんなの健康ラジオ

『熱性けいれんについて』

(2024年9月19日放送)

横浜市小児科医会

(医)ふじわら小児科

藤原 祐

けいれん時の対応

① まず落ち着くこと

② 時刻の確認

③ 安全を確保＋応援を呼ぶ

＊ 広いスペースに移動し寝かせる



けいれん時の対応

できれば頭と体を
横向きに



④気道確保

□衣服がきつければ緩める、あるいは脱がせる。

□吐物を誤嚥しないように

側臥位にするか顔を横に向ける。

□気道が確保できるように頭を後ろに少しそらす。



口の中に
物を入れない



水や薬を
飲ませない



体をゆすったり
大声で刺激をしない

けいれん時の対応

⑤救急隊を要請

□けいれんが **5分以上**持続する場合は救急隊に通報。

(必ずしも5分間を待つ必要はなく、実状に合わせ5分以内でも救急隊を要請しても構わない。)

□通報は応援者に頼んで、子供から目を離さず観察を続ける。

熱性けいれんと解熱剤

- 発熱時の解熱薬使用で

熱性けいれん再発を予防はできない。

⇒ 再発予防のための使用は推奨されない。

- 解熱薬使用後の熱の再上昇により

熱性けいれん再発はしない。

⇒ 子供が高熱で辛そうであれば、解熱薬を使用してよい。